

春の岡山県高校野球

春の岡山県高校野球大会（山陽新聞社後援）第2日は24日、倉敷マスカットスタジアムなど県内3球場で2回戦8試合があり、今夏の岡山大会のシード権獲得となるベスト8が決まった。玉島商は3点を追う九回に猛攻を仕掛け、総

社南に5-4でサヨナラ勝ちした。倉敷商は主戦高島の好投で明誠学院を退け、今春のセンバツに出場した創志学園は岡山東商に辛くもサヨナラ勝利。優勝した2012年以来の8強となる倉敷工のほか、関西、学芸館、山陽、光南も勝った。

第3日は29日、同スタジアム、倉敷市営の2球場で準々決勝4試合が行われる。

9回猛攻 玉島商8強



【総社南―玉島商】9回裏玉島商無死満塁、永島が右翼線に2点適時二塁打を放ち同点に追い付く。捕手井川（倉敷市営）

「打ち直しも集中切らさず」9番の一打サヨナラ呼ぶ

「幻」と消えた殊勲打を、強い気持ちで現実にした。2点を追う九回無死満塁、玉島商の9番永島が放った右翼線への同点二塁打は、際どいファウルが2本続いた後、ため息が漏れた応援団を大喜びさせ、「完璧な安打で決めてやろうと思っていた」と胸を張った。

1ボール、1ストライクからの3球目、思い切り引った打球は左翼ポール付近まで飛び、走者2人が「生還」したが、責任審判の場内アナウンスは「ファウル」。打ち直しの4球目も、わずかに右翼線の外へ切れた。それでも「絶対に自分が打つ」と集中力を切らさない。1ボールを挟んだ後の6球目、外角直球をコンパクトに振り抜くと、糸を引くような打球が右翼線内側で弾んだ。これでチームの雰囲気は最高潮に。押せ押せムードの中、後続の宮原怜、白神が救援マウンドに立った相手投手をスクイズの構えで揺さぶり、四球と死球で労せずしてサヨナラ勝ちを収めた。

劇的な幕切れだったが、行成監督は「エンジンが掛かるのが遅い。力がない」と辛口のコメント。第3打席まで無安打だった永島も「次はもっと打って監督を見返す」と気を引き締めていた。（山本友志）

▽2回戦
総社南0000220004
玉島商010000004x5
（総）三宅、岡本、井川
（玉）西陸、永島
▽二塁打 宮原怜、白神、宮谷、永島（玉）

【評】玉島商が九回、3点差をひっくり返してサヨナラ勝ち。失策で得た無死三塁から宮谷の適時二塁打でまず1点を返し、安打と四球の無死満塁で永島が右翼線へ同点の適時二塁打。四球を挟み、最後は押し出し死球で決着した。

総社南は好投を続けた主戦三宅が最終回にっかり、継投も実らなかつた。（山本友志）

山陽乱打戦制す

山陽01001100328
山陽0000050016
（山）坂田、小松、松岡
（芳）山下、平井

▽三塁打 上村（山）山下（芳）
▽二塁打 小野、小松、日野（山）藤原、平井（芳）

【評】両チーム計23安打の乱打戦を山陽が制した。3-5の八回1死満塁、内野ゴロが敵失を誘